

令和6年度学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	備考	7月結果	分析(成果と課題)及び今後の取組	
1 生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、時代の変化に適応しつつも毅然とした指導で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る。	① 挨拶を含めた所作の指導を、S・T・授業・休み時間、学校行事等「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で指導する。	学校に關係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	89.6% 判定B	生徒アンケートの結果、学校で自ら進んでよく挨拶しているという生徒が、89.6% (学年別：3年90.7%、2年88.1%、1年90.4%) という結果であった。わずかなポイントではあるが前年度より0.7%低下している結果となった。挨拶を不得手とする生徒が増え続けている現状がみられる。また、スマートフォンを操作しながら挨拶する生徒も増えており、歩行規則の遵守の指導を強化する必要がある。本校の善き校風として、挨拶がもたらす尊敬や親愛、信頼関係のコミュニケーションづくり等の効用を生徒たちに再認識させるとともに、これらの共通意識のもとに挨拶を遂行していくことで、いじめのない安全・安心を土台にした学校づくりに繋げていく。	
	② 日常の観察の中で生徒の状況とそれに対する指導方針を共有し、全教職員が積極的に指導にあたる。	服装容儀等について積極的に声をかけをしている教職員が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)	92.9% 判定B	生徒アンケート調査の結果、服装容儀等について積極的に声をかけをしている教職員が、92.9%と昨年度より11.6%増加している。今後も、朝礼時に生徒各自の状況と指導方針を職員間で共有することで、すべての教職員が指導しやすい環境づくりに努めていく。さらに、学校規範等の標語を募る等、生徒と教職員が共通認識しながら取り組むことができるよう指導体制の拡充を図っていく。	
	③ 学校生活の重要性を伝えながら、学校生活全般が充実感をもって過ごせるよう個々の指導に努める。1日のよいスタートをされるように、5分前登校の重要性を粘り強く指導していく。	年度内で3回以上遅刻した生徒の数が、 A 40人未満 B 40人以上45人未満 C 45人以上50人未満 D 50人以上	月ごとの集計記録を整理して、前年度の年間総合計に基づいて評価する。	37名 (7月現在)	判定A	7月現在で3回以上遅刻した生徒の数が37名と厳しい現状となっている。生徒アンケート調査で「朝の始業5分前に着席を心がけている」と回答した者は、全体で前年度同期比1.3%減の87.1% (学年別：3年75.9%、2年73.3%、1年81.9%) という結果となっている。1日のスタートの重要性を育ませる指導を強化していく。挨拶運動を軸に進めていくと共に、風紀委員会を中心にした生徒目線による啓発運動を計画させ、これをもとに実施し、生徒全体の意識を高めていく。
	④ 「いじめ・不登校問題対策委員会」等で生徒情報を共有し、全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	87.1% 判定B	アンケート調査の結果、いじめが少なく安心できる学校であると回答した生徒は全体で87.1% (学年別：3年94.4%、2年79.2%、1年91.5%) となっており、B判定となった。1学期にはSNSトラブル未然防止教室の実施や学年団と情報を共有しながら指導を行ってきた。生徒指導による特別指導内容をもみても、SNSの書き込みやなりすまし、本校以外の生徒を介して起こる人間関係のトラブル等が発生する傾向が高まっている。夏休み期間から開設したフォームによるいじめ相談窓口を周知したり、集会などの機会には他者への思いやりと尊敬について常日頃から考えるよう問いかけたりするとともに、校内でのいじめ防止への共有意識を高めていく啓発指導を拡充していく。	
	⑤ 学校の環境美化に積極的に努め、校舎内外の環境美化にも取り組むよう指導する。	校舎内外の環境美化にも取り組んでいる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	71.5% 判定D	生徒アンケート調査の結果、校舎内外の環境美化にも積極的に取り組んでいると回答した生徒は、全体で71.5%となっており、D判定となった。(学年別：3年75.9%、2年64.4%、1年76.6%) 後期は前期に3回実施の「鶴高クリーン作戦」を継続するとともに、整備委員による昼休みの放送やポスター掲示による全校生徒への啓発活動や授業、学校行事等、学校生活全般を通じて呼びかけを行い、校舎内外の環境美化に努めていく。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向や対人関係等に悩む生徒に対して支援を充実させるためにスクールカウンセラーが果たす役割は大きい。全国的にも不登校生徒が増加傾向にあるため、今後もスクールカウンセラーと教職員との連携や組織的な活用となるよう指導体制の充実にも努めてほしい。 ・校内ではしっかりと挨拶が出来るものと感じていたが、校外では覇気のない挨拶をする生徒もみられた。自分自身に自信を持っていないためかもしれないが、環境が変わっても相手に受け入れてもらえる挨拶をしていくために、自信を持たせるような指導も必要である。 					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室長の綿密なコーディネートにより、本校職員にはスクールカウンセラーの役割が十分に理解され、必要な情報共有もなされている。ただ、連携は図られているものの、配置時間が限られ相談時間が短いことや曜日が限られていることから柔軟な相談対応や学校における相談体制の充実という点からは課題となっている。そのため、校内においては、生徒の相談の窓口である保健室との情報共有を密にする必要がある。場合によっては、発達支援コーディネーター、医療機関、警察署、児童相談所等の外部機関との連携を取ることで、より多面的な支援体制の充実を図る。 ・年間実施予定の「遅刻ゼロ・挨拶運動」を通して、鶴高挨拶を学校全体に浸透させていくとともに、マナーとしての挨拶以外に、挨拶が持つ様々な意義や効用の観点から指導のより充実を図っていく。 ・挨拶運動でも、生徒玄関先ではスマートフォンを操作しながら挨拶する生徒も増えており、歩行規則の遵守の指導を強化する必要がある。 					

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	備考	7月結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
2 生徒が安心して学べる授業づくり(授業規律の維持、授業のユニバーサルデザイン化)を推進するとともに、家庭学習時間の確保や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す	① 毎月の教育相談委員会で報告される生徒情報を、学年会で共有し、より深く把握できるようにする。担任が掴んだ生徒の進路希望を教科会で共有し、適切に支援できる能力の向上を目指す。	個々や集団に応じた授業を行うために、担任や学年団・教育相談などと生徒情報を相互に共有している教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)	96.4% 判定A	個別の支援や配慮を要する生徒の在籍が増加しており、教育相談室、保健室を中心に情報発信し、各教科や担任の先生が対応した結果、96.4%と高い数値となっている。 情報を共有しても対応には限界があるので、必要なことやできることを選択や、外部人材のサポート等、対応方法が今後の課題となる。
	② 1人1台端末の効果的な利用や話し合い、発表の場面などを取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組む力を身に付ける。また、そのための学習の評価の仕方を各教科で検討する。	発表や話し合い活動など、積極的に授業に参加したと答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	76.7% 判定D	生徒アンケートでは全体で76.7%と前年度同期比0.9%の減少となっている。学年別では、1年が同比1.7%増の83.0%、2年が3.0%増の74.3%と増加しているが、3年生は同比7.4%の大幅な減少となっている。ペアやグループ活動も一部の生徒だけが積極的になっていることや、1人1台端末や授業形態などに慣れてきて積極的とは感じにくくなっている現状がある。 グループ活動での一人一人が積極的にかかわるための活動手法や学習形態等、効果的な活用に向けて研究を重ねていく必要がある。
	③ 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自尊感情を育み、希望進路の実現を果たせるよう努力させる。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A 4名全員 B 2名以上4人未満 C 1名以上2人未満 D 0名	最終進学状況の調査で評価する。	-	国公立志望者4名(8月19日現在)が、授業に加え、補習、個別指導を中心に各自の志望先に合わせた学習を進めている。 チューターの指導で志望理由を確定しつつあり、今後、出願、面接指導へと進めていく予定である。
			3月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	3月就職状況の調査で評価する。	-
	④ 家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身に付けさせることにつなげる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上60%未満 C 40%以上50%未満 D 40%未満	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	56.2% 判定B	特進クラスを中心に、予習・復習や週間課題などを課し、家庭学習の時間を確保するよう指導している。今後も継続していきたい。 普通クラスでも日々の学習だけでなく検定の取得に向けての勉強など家庭での学習の習慣化を目指したい。
	⑤ 情報科、商業科における各種検定・資格取得を推進するとともに、より上級資格取得に向け挑戦する意識付けと対策講座等、指導体制の充実を図る。	ビジネスコースに在籍する生徒を対象に、各種検定各級取得率が、 A 1級2種目取得率30%以上 B 2級2種目取得率50%以上 C 3級2種目取得率70%以上 D A B C未満 ※各検定級合格者数/コース人数	各種検定の合格状況を調査する。	70.2% 判定C	ビジネスコース3年生16名、2年生31名の在籍数で、1学期実施の検定では、全商ビジネス計算実務検定取得率は3年生3級100%、2級75%、1級25%、2年生3級67.7%である。全商ビジネス文書実務検定取得率は3年生3級93.8%、2級81.3%、1級12.5%、2年生3級67.7%となっている。2種目以上3級取得者3年生93.8%、2年生58.0%、全体では70.2%と現段階では堅調な数値となっている。 2学期以降に、ビジネス計算、ビジネス文書、情報処理2回、商業経済検定が予定されており、さらに合格者が期待できるが、より上級の資格取得に向けて挑戦できるよう意識付けを行っていく。
⑥ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。朝学習や授業を利用して読書を取り入れ、本に触れる機会として図書館での貸し出しを促す。	図書室での年間貸出冊数が、 A 1,400冊以上 B 1,200冊以上1,400冊未満 C 1,000冊以上1,200冊未満 D 1,000冊未満	年度末に集計する。	-	7月末現在428冊であり、前年度同期の319冊を大幅に上まっている。生徒数が前年度より増えたことも一因であるが、4月のオリエンテーション指導の充実や朝学習での読書推奨の成果も大きいと思われる。 今後も図書委員の活用など、図書館に足を運び本を開く機会を増やしていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向や対人関係等に悩む生徒に対して支援を充実させるためにスクールカウンセラーが果たす役割は大きい。長期欠席者の新入生の割合が多いが、今後もスクールカウンセラーと教職員との連携や組織的な活用となるよう努めていってほしい。 家庭学習の時間を確保している生徒数の割合が低調な数値となっている。勉強が苦手な生徒に対して、苦手意識を克服できるような工夫や楽しめる要素を取り入れたり、生徒全体に対しても時宜に合わせて学習することの意義や将来への学びの動機付けを図ったりするような手だが必要である。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒や遅刻者への指導、支援については、規範意識の欠如以外にも、学校自体に魅力を感じていないこと、生活環境が不安定で怠惰傾向にあること、人間関係の悪化等の心的要因とこれにともなう身体の変調等、様々な実態や理由があるため、教育相談室、保健室、学年団等と連携を図りながら一人一人に応じた指導、支援を基本として、場合によっては臨床心理士、警察署、児童相談所等、外部機関との連携を取る等、より多面的な指導、支援の充実を図っていく。 特進クラスを中心に、予習・復習や週間課題等を課し、家庭学習の時間を確保するよう指導を継続していく。普通クラスにおいても、予習・復習等、授業と関連づけた学習習慣の形成と併せ、漢字練習や検定取得のための勉強等、キャリアアップや生涯学習の視点から、生活リズムの中に家庭での学習時間を位置付ける指導を行っていく。 				

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	備考	7月結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
3 教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携・協働した活動の推進で、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。	① 中学生やその保護者に対して従来のホームページに加え、新たにSNSアカウントを設置・運営し、学校行事や部活動の大会情報、日常の学校生活等をよりタイムリーに公開することで、本校への理解を深め志願者の増加をめざす。	SNSアカウント（鶴高インスタグラム）の「グッド」数が、平均で A 180件以上 B 150件以上180件未満 C 120件以上150件未満 D 120件未満	7月、12月に集計する。	平均 159件 判定B	フォロワー数が1000件を超えている中での数値目標としては、低調な結果であったが、地域の方々からも「鶴高インスタ見たよ」という声掛けを多く聞くこともあった。ターゲットを中学生はもとより、保護者に絞っているので、夏以降のアップロード数の増加と、内容のさらなる向上を行っていきたい。楽しい学校行事ばかりでなく、本校が大切にしている「落ち着いて学習できる環境」も前面にアピールしていく。 HPの閲覧数は、例年通りの推移ながら、バレーボール部やラグビー部等、アップロード回数が多い部活動は、閲覧数が多いという原点に立ち返り、全体で発信力と回数を上げていく必要性を感じている。全国募集も行う部活動を中心に、活動内容を周知していきたい。
	② 「総合的な探究の時間」の活動を通して、生徒が興味・関心を持つ分野の課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討等に取り組む学習活動を充実させていく。	「総合的な探究の時間」の活動において、積極的に取り組むことができた生徒・教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	7月、12月に調査する。 (生徒・教職員・保護者アンケート)	生徒:88.0% 判定A	自らの生き方や在り方を考えるうえで役立ったと考える生徒は、3年生は98.1%と高く、1年生の割合が90.8%とこれに次ぐ。1年生が高い要因は、1学期に大学見学やそれに伴う事前学習、系・科目登録をきっかけに自らの適性や進路を考える機会を持った成果である。 2年生は今後、地域探究活動を発展させる予定であり、今後より地域と連携する実感を持つようになる。3年生においても、進路先決定後に地域の課題に向き合う活動を行う予定である。
	③ 生徒・教職員・保護者が一体となり、手取川歩行や花いっぱい運動を通して、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組み、地域とのつながりを深めていく。	学校行事や課外活動において、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う生徒・教職員・保護者の割合が、 A 70%以上 B 60%以上70%未満 C 40%以上60%未満 D 40%未満	7月、12月に調査する。 (生徒・教職員・保護者アンケート)	生徒:39.9% 判定D 教職員:71.4% 判定A	地域探究会を中心に中学校へジオパークに関する出前授業を行ったり、部活動においては、中学校との合同練習等も行ったりしているが、一部の取組であるため数値的には低いと考えられる。花いっぱい運動についても、天候の悪化などで全校での取組ができなかった。生徒・教職員・保護者と連携する花植えについても、北信越大会と重なったため参加数が例年に比べ少なかった。 2学期以降も部活動を中心としたボランティア活動を推進して、地域に信頼される学校運営に努めていく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や礼節を重視した指導や郷土に愛着を持たせる各種取組は、生徒の成長や発達を支える上で有益なものとなっている。中学校でも、ふるさと教育を展開し郷土を担う人材育成を図っているが、さらに中高合同で郷土愛を培う活動や6年間を見通した系統的な取組等、一緒にできることがあれば、より大きな成果に繋がるのではないかと。地域への愛着を培うことで、郷土を離れた場合であっても大人になったら地域へ帰って来る、そんな生徒達を育てていくことが、地域の学校として求められている。 鶴高通信以外にも、PTA広報誌等の外部に配布する紙媒体には、可能な限りHPやインスタグラムに接続する二次元コードを掲載し、アクセスの利便性を図っていくべきである。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 地域探究会による出前授業、鶴来商工会の地域振興イベント等、積極的に地域の各種団体との連携・協働体制を拡充していく。特に、地元中学校への出前授業については、2学期後半を目途に白山手取川ジオパークの保全活動や魅力発信の在り方をテーマとするプレゼン発表、ワークショップを実施する計画である。また、発表者やワークショップのファシリテーターを担う生徒たちには、対象学校の出身者を多く選定し本校における生徒の成長ぶりを教職員や在校生にアピールしていく。 従前どおりタイムリーでこまめな配信を基本方針として、報道機関やHP、インスタグラム、「鶴高通信」を通じて、本校の魅力や特色を中学生やその保護者にアピールしていく取組を継続していく。特に、インスタグラムでは、より見てもらえるようなハッシュタグの活用、投稿時間帯の分析等、発信方法の工夫と改善を図り、リーチ数増加をめざしていく。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	備考	7月結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
4 教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	① 各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握するとともに、毎月の業務の流れの中で先を見通し、区切りを意識した計画的・効率的な遂行に努める。	学習活動や部活動への指導の質の向上を図りつつ具体的な計画や取組を行い、時間外勤務を減少することできた教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)	71.4% 判定B	学習活動や部活動への指導の質の向上を図りつつ、具体的な計画や取組を行い、時間外勤務を減少することができたとする職員の割合は71.4%となった。80時間超者は延べ人数で7名で、延べ人数で6名で共に1名の減少となった。月別推移では、4月は0名(同比3名減)、5月も0名(同比3名減)、6月は2名(1名増)、7月は4名(4名増)で、特に、例年、超過勤務傾向が見られる学期始めで大きな減少が見られた。45時間以下の割合では、61.7%(同比0.8%増)で、ほぼ前年と同値となった。 職員の意識改革への啓発や、各種会議開催の精選、運営の効率化、定時退校日の割振りによる遂行、部活動の計画的な運営等、業務整理による残業削減を図るのみならず、改革の本丸となる授業のさらなる改善や分掌業務の質的向上、校内指導体制の一部再編等、学校改革にも位置づけ、堅実な遂行体制の整備を図っていく。
学校関係者評価委員会の評価		・土日曜日や祝日の部活動指導やボランティア活動や地域交流等の引率業務にあたる職員に対しては、負担軽減がなされるよう業務の平準化を図るべきである。時間削減も大切であるが、教育の質を落とさないためにも、職員のモチベーションを如何に維持していくかが肝要であろう。また、学校生活全般を通じて、教育の質的向上を図るために職員が気づいたことは直ぐに取り組む等、ワンランク上の教育活動を期待するとともに、学校改革にも繋げてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・月80時間以上超過勤務者ゼロ、月45時間以下の勤務者数の増加を実現するために、職員の意識改革への啓発や職員会議等の会議日における短縮日課の設定、各種会議・打合せ会の開催精選、運営の効率化、定時退校日の割振りによる遂行、部活動の計画的な運営等、業務整理による残業削減を継続していくとともに、授業のさらなる改善や分掌業務の質的向上、校内指導体制の一部再編等の取組も働き方改革に位置づけ、堅実な遂行体制の整備を図っていく。 ・各分掌に対して、業務の偏り、業務の属人化が解消されるよう、現状の業務システムの見直しを管理職との面談等とおして、定期的に検討していく機会を設定する。			